

福岡市水道水源かん養事業基金 第30回運営委員会議事録

- 1 開催日時 令和5年7月3日(月) 13時30分～15時00分
- 2 開催場所 水道局本館4階局議室
- 3 委員数 8名
- 4 出席者 7名
- 5 議事
 - I 令和4年度事業実績について
 - II 令和5年度事業について

○基金概要について 事務局説明

○議事 I 令和4年度事業実績について 事務局説明

○議事 II 令和5年度事業について 事務局説明

【質問・意見】

委員： 福岡市が市内で確保している水源かん養林566haを「市内水源かん養林整備事業」として水道局は整備を行い、その水源かん養林において市民の方に森林保全の活動をしてもらっているのか。また、育林・造林については、大きくなった木を適宜伐採して、新たに植樹することで森林が良い状態で保たれるという理解でよいか。

事務局： 福岡市水道局が所有する、曲淵・脊振・長谷ダム集水区域の水源かん養林566haを水道局が管理・整備しており、その一部において、市民・企業の方に森林保全活動を行ってもらっている。現状、所有する用地はほとんどが森林であり、整備としては間伐や下草刈りが中心になっている。今後は場所等を検討の上、試験的に皆伐を行うこととも検討しており、皆伐後には再造林を実施する予定である

委員： 状況によっては、小面積で皆伐し造林して持続可能な森林づくりを行うというモデルも考えられるため、皆伐もオプションの一つとすることが将来的にはよいのではないかと考える。ただし、急傾斜地などは伐採してはいけないし、福岡市においてゾーンング等で森林管理経営をしていくプランもあると思われるので、その辺については十分留意してもらいたい。

事務局： 農林水産局が福岡市の森づくりの長期ビジョンとして「Fukuoka Green NEXT」を策定しており、各局で取組みを進めている。その中では、森林区分によって小規模皆伐や再造林を進めることや、市民との共働による森づくりについても盛り込まれている。水道局においても今後、皆伐等も試験的に実施し、さらに、その土地に育てたどんぐりの苗を植樹するなど広葉樹林の森に変えていくという取組みを市民の皆さまとともに行っていきたいと考えている。

委員： 森林GISとは、どのようなものか。

事務局： GISは地理情報システムのことで、位置に関する複数のデータを地図上で重ね合わせ、視覚的に判読しやすい状態で表示したもので、森林GISは、水源かん養林区域や森林の状況、施業履歴等をデータベースとして、かん養林の整備や維持管理業務、点検・巡視の効率化に活用しているものである。
また、森林GISは位置情報を管理しており、林班やエリアを確認できる。
5年度、新たにドローンを活用した水源かん養林の点検を行うこととしており、ドローンで確認できる座標とGISのデータを活かし、より迅速かつ効率的に倒木事故等の未然防止に努めていく。

委員： 水源かん養林の方向性として、混交林にしていくという趣旨でよいか。

事務局： 植樹は広葉樹を植えて人工林と広葉樹が混ざった混交林という形を目指しており、人工林の間伐や伐採を行いつつ、広葉樹の植樹を行っている状況である。

委員： 広葉樹の森づくりは全国でも試行錯誤されている状況である。さまざまな情報やデータ等を行うことで成功体験を増やそうという段階なので、諦めずに継続してもらいたい。